

平泉を掘る

発掘最前線 159

— 祇園 I 遺跡 3 次調査 —

八坂神社(祇園社)は、平泉の南方鎮守として「吾妻鏡」に記されている神社で、特別史跡毛越寺境内附鎮守社跡の飛地指定になっています。今回調査を行ったのは、東北自動車道と県道300号(旧国道4号)との間に位置する水田で、八坂神社の南西にあたります。

調査の結果、八坂神社に近い東側では12世紀代の大溝跡や井戸跡、柱穴、土坑などが見つかりました。また、東北自動車道に近い西側では圃場整備以前の水田に伴う水路跡が見つかりましたが、全体的に遺構の密度が低いことが確認できました。大溝跡は幅約4.2m、深さ約1mで、底は平坦な形をしています。周囲との区画のために掘られたものとみられます。見つかった柱穴のうち3個は2.3m前後の間隔で、南北方向に並んでいました。今回は南北の並びしか確認できませんでしたが、調査区外へ広がる建物跡の可能性がありま。井戸跡は直径約3.5m、深さは2m以上になります。埋土からはかわらけや国産陶器、木製品など多くの出土遺物がありました。

祇園地区を含む太田川南岸では、これまでも大型建物跡や道路跡といった重要な遺構が見つかってい。ますが調査事例は多くなく、全体像はまだ明らかになっていません。12世紀の平泉の広がりを知るうえで重要な地域であると言えます。



大溝跡の断面



柱根が残っていた柱穴